
angelprincess

瑠璃色

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

angelprincess

【Zコード】

Z7029Z

【作者名】

瑠璃色

【あらすじ】

もうすぐ、一端覧祭。

美琴のクラスメイトのクールビューティな沙羅、明るい未玖、ふざけたところがある流人、常時ハイテンションな玲 + 美琴が学園都市に嵐を巻き起こす！？

一端覧祭で彼らは伝説を作ることになる！？

オリキャラがダメな方はバックをおすすめします。

作者の語彙はひつじょーに貧しいのでお気をつけください。

注意

この小説は美琴死endですので美琴ファンの方は読まない事をオススメします。

作者も美琴は好きですが、オリキャラから出来た作品ですのでどうしようもないです。

この作品は短期連載となつております。

これらのこととを許せる方は次話へ・・・。

多分暗いお話になります。

後、作者は素人ゆえ、未消化で終わる部分もあると思われますがなにとぞよろしくお願ひします。

要約すると残念クオリティってことです

ここまで聞いてなおOKと言つて下さる方は次話へGO!!

その他の方はプラウザバック推奨です。

進むか進まないかそれは汝が決めること――

クラス（前書き）

はじめまして！

かなり文が苦手なので分かりづらいと思いますがよろしくお願いします。

美琴 視点です。

クラス

「御坂ー！」

ただいま、私、御坂美琴は高校一年生で楽しく？スクールライフを送っています。

一緒に学校に通っているインデックス、統括理事会理事長になられた当麻に一方通行。魔術師と戦う時の仲間の元春にエリツアリ、アイテムの面々にLevele5の面々。楽しくない筈が・・・ない・んだ。

確かに魔術師と戦うのも大変だけど、でも楽しい筈なんだ。

長点上機学園。

もうすぐ、一端覧祭がある。

最もこのイベントはいわいる文化祭で、学校説明会もあるので入学希望者が対象になる。

ここ、長点上機も見学者獲得に力をいれている。

1-A

「クラスの出し物を決めますー！」

委員長がハイテンションで語りと皆もイエーイ！とテンションあげる。このクラスはエリートというより、バカやっている感じで楽しい。私もバカやってる一人なんだけどね！

「折角美少女と美少年がそろってるんだから、メイド＆執事カフェとかは？」

流人の提案にほとんどが賛成し、決定した。あーまた接客担当だなーと憂鬱に思つていると

「美琴、きつと接客担当でしょ？」

と言われてしまつた。声をかけてきたのは日ノ坂 沙羅（ひのさかさら）。さつぱりした性格でクールビューティーと言われていてモテている。level4の「^{ニアロジュー}風力使い」。

「みこちゃんは可愛いもんね」

この子は祭花 未玖（まつりか みく）。明るくて少し子供っぽい。歌が上手く、歌姫と呼ばれている。level4の「^{アニマルタクト}動物指揮」。

二人も十分可愛いのに・・・。だって一日に一人のペースで告白されているんだよ？私達は1Aの美人三姉妹と呼ばれているし。別に姉妹という訳ではないけど姉妹みたいでこのあだ名は三人とも意外に気付いている。美人はいらない気がするけど。

「三人とも接客担当だろ？」

そう言つてきたのは柊 流人（ひいらぎ りゅうと）。カフェを提案した子だ。彼はイケメンなのだが自覚なしで性格はふざけたところがあるけど、優しかつたり、行動力があるいい子だ。level1の「^{ルームアウト}空間掌握」。

「そうだよ～。未玖も沙羅も接客だよ？」

「それを言つなら流人と美琴もじやない？」

四人でふざけて言っていたのだが、実際に十分後に私、沙羅、未玖、流人揃って接客担当になってしまった。衣装とか接客の練習とか大変なんだよなー。皆、同じことを思つていたようで苦笑した。

一週間後

「流つちー！（流人のこと）笑顔！」

「ミクリンー（未玖のこと）料理を落とさないで！」

接客の先生の委員長の注意がどんどん飛ぶ。かれこれ一時間はこんな感じでさすがに・・・

「ずっと笑顔していろいろといわれても・・・」

「少し休ませてよー委員長」

未玖は頬を膨らませて、流人はつんざりしているような顔をして抗議する。委員長はしそうがないなーと言い、十分の休憩をくれた。

委員長は本名、平野 玲（ひらの れい）、性格はセリフだと真面目さうだが結構テンションが高く、お祭り事に目がない。人をあだ名で呼ぶ。levvel4の「バイロキネシス発火能力」。

「みこちゃんは接客上手いなー」

「玲だつて上手いじゃん。前、クレーム来たときとか凄かったよ？」

玲とは気が合つ。玲も常盤台出身でどうしてもただ面目なクラス

に馴染めなかつたらしい。私も堅苦しいのとか、真面目なだけのはつまらないと思う。今は凄く楽しいけどね。玲も楽しいみたい。

「みことこるかな?」

私を訪ねてきた人はインテックスだつた。滅多に私のクラスに来ることなんてないのに。なんのようだらう?と不思議に思つてゐるとクラスが騒がしくなる。これも銀の姫君と呼ばれているインテックスの力なんだらうなーとのんきに思つてゐると

「みことー何ボーッとしてるんだよ?」

「あーなんでもない。で要件は?」

滅多に来ないインテックスの用なんて思いつかないし、なにか深刻なことでもあつたのかな?と思つていていたのだが

「みことおーとつまがとうまがね鈍くて気づいてくれないんだよ!」

たいしたことでは無かつた。深刻に思つだけ無駄だつたなーと呆れてしまつた。インテックスをほつとく訳にもいかず話を聞いたのけど、結局勘違いし合つていただけだつたので、

「素直に話しなよ?つち使つていいから」

とだけアドバイスし、戻つた。まったく一人とも素直じゃないなー。青春あくつてますなーと思いながらアイテムの面々に連絡する。

『インテックスと当麻が素直になんないからちよろつとこ入れない?』

少し待っていると、携帯が鳴る。おそれくアイテムからの返信だろう。

『おっけいだにゃー。でどうある?』

返信しようとしたが

「みーちゃん!早く戻ってきてー!」

と未玖に呼ばれてしまいできなかつたのだが……。

そのあとが地獄だった。

ありとあらゆるメイド服を着せられ、礼儀作法をいらなうことまで叩き込まれた。流人と未玖は終わってすぐにカラオケに行こうと言い出し、帰れたのは七時だった。

完全下校時刻を大きくオーバーしたことについては突っ込まないでほしい・・・。

能力の設定（前書き）

オリジナルの能力である、未玖の「動物指揮」^{アニマルダクト}と流入の「空間掌握」^{ルームアウト}の設定です。

能力の設定

「**動物指揮**」
アニマルタクト

動物を従えることができる。

動物の声が聞こえ、level 次第で動物の巨大化、最小化が出来る。

その動物が懷いているかどうかも関係し、巨大化などは自分のペットとの方が成功率は高い。

未玖の場合、イメージ（自分がだけの現実）をより鮮明にするため、巨大化させたりするときは掛け声のようなものを言う。

例 「**動物指揮！ dynamics、フォルティッシモ！**」
アニマルタクト

未玖は歌が得意な為、この言葉は音楽用語で、意味は未玖が強弱と言う意味の dynamics を強弱でなく、大小と捉え、フォルティッシモは強くと言う意味だが大きくと捉えている。なので大小＝大きさを変えると言う意味で言つていて大きく＝大きくするという意味で言つてはいる。

「**空間掌握**」
ルームアウト

空間の把握、空間を創ることが出来る。

空間の把握はどこに誰がいて、その空間の大きさは「う」と「う」とが分かる。

空間を創るというのは意味は違うが、ハルヒのつくりだすようなもので、自分の創る空間の大きさの範囲に（自分を中心として）いるとその空間に入る。本人は入ることも入らないことも出来るが今の

流人のlevelでは不可能。創れる空間の大きさも制限がある。
空間を創るのを応用して足場を作ることが可能。

能力の設定（後書き）

分かりづらくてすみません

統括理事会（前書き）

今回は統括理事会、つまり上條さん達、ヒーローやレベル5のお話です。

訂正とお詫び

美琴達の学年ですが正しくは一年生でした。
誠に申し訳ありません。

統括理事会

統括理事会

現統括理事会は理事長、上条当麻、一方通行、理事の浜田仕上、麦野沈利、滝壺理后、土御門元春で構成されている。美琴は来期統括理事会採用が決定していて、今も手伝つたりしている。

このメンバーはよくも悪くも常識人が皆無だ。皆、どこか常識が欠落している。（一方通行達に言つたら怒られそうだが）

だからよく、行事の内容が変わる。今回も一端覧祭は入学希望者向けの行事だから外からの見学に来るのとまとめてしまおうーとなつた。要するに仕事がしたくない、めんどくさい、のだ。

よつて結局理事長は仕事が増える訳で。

当日の来場者数を予測して、IDを発行したり、ゲートの機械を多く導入したり、発表をしたり。とにかくやることが多い。（サボリ気味な部下の所為でもある）

「つじちゅーこれサイン」

「へーへー」

「理事長へ予算案こんな感じでいいかにゃー？」

「ン、OKだ」

「当麻、一端覧祭のプランまとまつたよ」

「悪いな、御坂」

「うだー休みてえ」

「ちやつちやとまじめろオ、浜面ア」

当麻が美琴に渡された一端覧祭のプランを見て

「御坂、このテレビで放送する超能力を使つた出し物つて長点上機と常盤台つてなつてるけどどうやって決めたんだ?」

「抽選。これからその承諾貰いにこいつと思つてたんだけど」

美琴も苦笑している。抽選で五本指に入る学校が一つなんて偶然なのだろうか?

だが美琴は何事も平等に行うので嘘をついたとは思えなかつたので当麻はま、いつかと承諾した。

「承諾してもらいに行くなら誰と行くか?」

さすがに高校生でどちらにも在籍していた美琴が交渉に行って大丈夫だろうか?

長点上機の理事長は事情を知つてるのでまだしも常盤台といえどお堅いからだ。

なので当麻は聞いてみたが(ちなみに当麻は常盤台の理事長には会つたことがない)

「大丈夫よ」

けれど心配だったので結局

「お前が言い出しそうだろオが。お前が行つていい」と一方通行に一刀両断され、美琴、当麻で行くことになった。

学舎の園

二人は待ち合わせの時間までかなり余裕があつたのでぶらぶらしていると声をかけられた。

「御坂さん！」

美琴の後輩で柵川中学の初春飾利と佐天涙子と常盤台中学の白井黒子だった。

案の定、美琴は黒子に抱きつかれそうになつたが当麻らと鍛えた体で瞬間移動のような驚異的な動きでかわし、手のひらで軽く殴つた。

「御坂さんと・・・どちら様ですか？」

「ああ、統括理事会理事長、上条当麻だ」

「アハハ！それ業務用挨拶になつてない？」

美琴はいつもの癖で統括理事会理事長と言つてしまつた当麻を笑いつつもフォローするように

「統括理事会理事長補佐官、御坂美琴です」

と業務用の挨拶をする。しばらく三人はポカーンとしていた。

「御坂さん統括理事会に入ってるんですか？」

「ん、まあね。来期から正式に入るんだけど」

しばらく会つてないうちに随分と色々変わったんだなーと思い、少し寂しく思つた三人だった。

当麻と美琴は三人と別れ、常盤台中学に来ていた。

もちろん、こんな知名度のアップする話を断る訳なく、承諾してくれ、既に能力を使ったイベントを考えていた為そのまま実行委員の生徒と打ち合わせしていた。

常盤台はパフォーマンスショーをやることになつていて準備も終わっていたらしい。

「まず禁止事項は精神系の能力、人を使う能力ね。注意してほしいことは能力と能力で科学反応が起きないか。書類を見る限り大丈夫そうだけど最終確認に暇な時来るから」

それだけ言い帰った。長点上機はもう承諾してもらつており、インデックスを落とす方法について教えたりしながら戻ったのだが、

「みこつちやあん~」

なぜか皆、酔っていた。とりあえず個室まで運び片づけていたら、ワインとシャンパン、日本酒の空ビンがたくさんおちていた。もちろん、起きてから美琴と当麻が一時間説教した。もちろん皆、反論した為、問答無用で正座＆一日黙つじとを聞くと約束させられた。。。

統括理事会の天気は晴れ時々怒鳴り声だつた。。。

亮盤印中學（後書き）

酔っぱらって怖い・・・。

麦野とか酔っぱらつたりしなことしかやいだだなーと思いまして。

次回からは真面目に一端覽祭本番スタートです！

感想お待ちしてます！

—端覧祭— 日皿一（前書き）

前回のお話はキャラ崩壊していたので直しました。すみません！

一 端覧祭 一日目 一

「流つちー力フHの材料は?」

「完璧。保存しておけるものは作つて置いてある」

「ミクリン!出し物の方は?」

「後は演出の再調整だけだよ」

今日は一端覧祭当日。ここに長点上機も準備で騒がしかつた。もちろんAもだ。といつかここが一番騒がしい。玲の熱が周りに引火し、相当燃えている。沙羅、美琴には微笑ましくも少々つるさい感じがするが。

「あー玲、私用事があるから抜けるね。先生には言つてあるし、明日はまたやんとやるから。」めんね

玲が親指を立ててOKのサインをしたので美琴は常人では出せないようなスピードでどこかへとんでいった。

「まつたく、明日は沢山働いてもらつからね?みーちゃん」

玲はよしつーと気合を入れ直し、皆に指示を出していった。

統括理事会

「今日は一端覧祭だーしつかりやれよーまずスケジュールだが

「八時に見学者の迎え、その後学園都市についての説明、九時から開催宣言を行います。

各理事はパトロールに行って貰います。風紀委員も一緒にです。今回は177支部に協力してもらいますので時間や場所についてはそちらで確認してください。

理事長はテレビのインタビューが一時からありますので早めに昼食を済ませ、着替えてください。それまでは基本自由ですが器物破損、喧嘩は慎んでください。それと携帯を必ず持ち歩くようにしてください。」

美琴が完璧に今日の予定を話す。皆嫌そうな顔をして美琴を見る。すると美琴はにこおと笑いかけ、

「嫌だとか言つ苦情は聞きませんよ？それとも殺されたいのですか？」

と言つので皆顔を真つ青にして首を横に振る。そのまま解散となつた。見学者の迎えは美琴、当麻となつた。容姿、性格を考えて決まつたのだがやはりこの一人しか適任者が居なく、また美琴と当麻になつた。

見学者の待つ場所

大きなバスが止まっている駐車場に並んでいる子供たち。選ばれたのは応募で当たった子、来年学園都市の学校に入学予定で入学する予定の学校に招待された子、成績優秀な為学校に推薦された子などだ。

そこへ大きなリムジンが現れる。出てきたのはスーツに身を包んだ

可憐な女性となぜか父親に似通つた物を感じる男性。

「よつこじや、学園都市へ。統括理事会理事長、上条当麻だ。よろしくな」

「統括理事会理事長補佐官、御坂美琴です」

簡素な挨拶を済ませ、子供たちはバスへ乗せられる。次についた場所は大きなホール。だが子供たちは初めて見る科学の街に心を奪われていた。見たことない機械が街中を回つてゐる。外じゃ考えられないような近未来的な数々の建物。一端覧祭の準備で慌ただしく走る沢山の生徒達。

当麻と美琴は微笑んでもないとしばらくその光景を眺めていた。

「そろそろ中に入りましょうね」

美琴の呼び掛けで先生らしき人物が皆に呼びかける。ここは学生の街。学校も無数にあるので先生にも勉強になる場所なのだ。よつて、先生も研修という形でいるのだ。

ホールの中へ全員入つたことを確認すると美琴はマイクを持ち、学園都市についての説明を始めた。

「ここは科学の街。警備ロボットが徘徊していますが、触らないようにしてください。怖い人に話しかけられたら私がこのお兄さんを呼んでください。後、このIDはこの街でのあなたたちの身分証明書です。絶対になくないでください」

そしてIDをくばる。

「質問はありますか？」

「はーい！」

元気よく手を上げた男の子を指す。

「お姉さんほどのぐらいで強いの？」

「んー、このホールを壊せるぐらい、かな？」

さすがに一人で軍隊と戦えるとは言えなかつたがそれでも子供たち
はすごいと思つたらしい。質問を終え、教職員のみ別室に呼ぶ。

「この街には超能力があります。それ故に格差のような物が出来て
しまつています。襲われたり、銀行強盗が起きたりしています。昔
と比べて減りましたが・・・。この街の平和を守っている風紀委員
や警備員がいますので何かあつたらすぐに連絡してください」

番号を教え、その他の注意することを話し、観光に出発することに
した。

—端覧祭— 日田一（後書き）

一日田が思つたより長くなつてしまつたので分けました。
どうしようつ・・・見学者の中にコナン（名探偵コナン）達を入れた
い・・・。
もしかしたらi-fとしてつくるかもしません。
見学者にコナン達入つてるバージョン（笑）

一 端覧祭 一 日田2

バスから見える風景にキャーキャー言つている子供たちを見て

「なんか懐かしいなー。上條さんも昔は」なんだつたけな」

「言つてる事が爺さんくさいですよ?」

少なくともまだ十代の人が言つて呪語ではないだら?。当麻はそつかあ?と言つただけだつた。

「て言つて敬語じゃなくていいぞ」

「やつ? ジヤあいつもどつて喋るよ」

一人は見慣れた景色に反応することもなく、パトロール大丈夫だろうか?とかインデックスのことを話していた。

「早くインデックスに告白したら?見てるこいつがじれつたいのよ」

「上條さんはビーセ不甲斐無い男ですよーだ」

いじける当麻をよそに美琴は田の前の子供たちを見つめる。美琴は私とは正反対ね。私はいつから無邪氣じやなくなつたんだつ?と物思いに耽る。

とんとん

「おーい御坂?開催宣言の会場についたぞ?」

「『じめん、ちよつと考え方して』

上条と美琴が向かったのは放送室のよつな場所。すでに一方通行が待っていた。

「遅かつたな二下ア」

「わりいわりい。じゃ始めますか」

美琴がスイッチを押し、レバーを上げる。

『ただいまより一端覧祭、開催宣言を行います。まずは上条理事長からの『じ挨拶です。』

『統括理事会理事長、上条当麻と統括理事会理事長、鈴科真だ。皆さん、今日は一端覧祭です。守るべきことは守って、大いに盛り上がり！けれどくれぐれもやりすぎないようにな！』

美琴が頭を抱えるが、一端覧祭は学生の行事だからこそ上条も羽目を外せる。だが美琴の頭痛の種なのには変わりないらしい。これは一方通行も同情的な視線を送っている。

『次に鈴科理事長の開催宣言です』

『これより、一端覧祭を開催することを宣言する』

遠くからオーーと叫び声やがんばるぞーと叫び声が聞こえてくる。三人は微笑み、こちらもコシンと拳をぶつけた。

風紀委員第177支部

「統括理事会理事の浜面仕上だ。少しの間だがよろしくな
「同じく統括理事会理事の土御門元春だぜい。よろしくな

「統括理事会理事の浜面仕上だ。少しの間だがよろしくな

「麦野沈利だにやー」

「たきつぼうじゅうへ。よろしく

統括理事会の面々の自己紹介が終わると

「固法美偉よ。よろしくね

「白井黒子です。よろしくお願いします！」

「初春飾利です。よろしくお願いします！」

理事会のメンバーは特に関心がないようで浜面だけが必死に覚えようとしていた。そんな浜面に統括理事会の面々はこれだから馬鹿面は・・とかドンマイ的な視線を送っていたりしている。そんな中元春が

「白井・・・ああー!! サヤんとの変態的後輩だにやー！」

「ああ、御坂が近づかない方がいいわよって言つてたな

しばらく皆黙ってしまう。そんな沈黙を破ったのは電話だった。白井がスピーカーホンにして出る。

「もしもし、風紀委員第177支部ですけど「ちよつと土御門……」お姉様!どうかされたのですか?」

そんな白井の呼びかけが聞こえなかつたかのように怒鳴り声が響く。

「土御門……人の服を一全部メイド服にすんなあ!忙しいのよ!あの馬鹿どもが色々やらかすし、だつて一人して自動販売機壊すわ、睨んできた不良を殺しかけるわ、勝手にどつか行くわ……」「ご愁傷様、ミサyan」よし土御門、舞夏に言いつけとくわ

そう美琴がいふとサア……と土御門の顔が真っ青になつていぐ。それにしても器物破損に殺人未遂、行方不明と白井、初春、固法は美琴つてなにもの?と思いかねないような事だ。まあやつているのは当麻と一方通行だが。

「ミサyan何でもするからそれだけは勘弁!!」「わかつたわよ。こんど当麻達と残業ね。もちろん残業手当もなしよ?」はい……「黒子たち、うちの馬鹿どもの事よろしくね」

ブツツ……電話は切られてしまった。

白井たちはこれからどうなるのか正直怖かつた。

数時間後

結局、酷かつた。誰かさんははずつと電話でメイド談義をしてるわ、誰かさんは売られたけんかは買いまくつて殺しかけていた。後で皆、五時間程美琴にこつてり絞られ、皆で仲良くサービス残業だったとか。美琴は全員で謝りに行き、その上、一個数千円のお菓子まで謝罪として渡したとか。（もちろんお支払いは一方通行のクレジット

カードで)

—端覧祭— 日皿2（後書き）

どうでしたか・・・？地の文が難しい・・・。
感想お待ちしております。

「端覧祭」一日目（前書き）

ついに「端覧祭」らしい・・・！

一端覧祭は何日間か分からぬので「一日間にさせていただきました。
ちなみに11月に開催されるんですよ～（確か）

一 端覧祭 一日目 1

長点上機学園

1—A

美琴はロッカーの前で呆然としていた。なぜなら、メイド服が凄まじかつたからだ。

超ミニの丈に五段フリル。大きなリボン。

怒りを通り越してものはや呆れていた。昨日さぼつたからか?などと考へていると未玖がやつてくる。未玖も同じ格好だった。今日は統括理事会のメンバーもやることがなく、来ると言つていたので最悪だ。

「みこちゃんそんなに沈まないでよ。早く行こ?」

未玖に手を引つ張られる形で教室にたどり着く。クラスメイトがおり感嘆の声を漏らしているのすら気付けないほど美琴の気分は落ちていた。未玖、玲は二コ二コしていて、沙羅、流人は苦笑している。

時間は待つてくれず、すぐに開店時間を迎えた。

「いらっしゃいませ。何名様ですか?・・・あ

「えーと五人?」

「馬鹿か。六人だろオガ」

言つまでもなく、最も会いたくない人物ワースト10に入る人物達

だつた。

「へいひへく」

今は学園祭、今は学園祭・・・美琴はそう念じ、精巧に作られた作り笑顔で「」と笑いながら席へと案内する。

「」注文は?」

「アイス」「」

「鮭弁当」

「ないです」

「メイド特製パフェ」

と好き好きに注文していく。どんどん作り笑顔が黒くなつていく美琴に上条と浜面は同情的な視線を送り労いの言葉を掛ける。小さくありがとだけ言い、別のテーブルに移動していった。まあ特に何も無く、終わったからよかつたとだけ言っておこう。

「いらっしゃいませ!」

「御坂さんー来ちゃいました!」

初春、佐天、白井が訪れた。ちょうどお姫さんもいなかつたので少し話していると

「美琴、友達?」

沙羅に声を掛けられる。おそらく、美琴は統括理事会で忙しく、あまり友達と遊ばないのをしつてているからだろう。未玖、沙羅、流人、玲は美琴が統括理事会に入っていることをしつてしているのでなおさらだ。

「うん。後輩よ」

「そうなの。珍しく美琴が私達以外の人と話してるから少し驚いた」

「でもみこちゃんだつて友達ぐらい居るでしょ？あ、始めてまして～祭花未玖だよ。よろしくね！」

未玖までやつてくる。初春たちはしばらく驚いていたがよろしくと返した。するとお客様がいなくて暇だからか流人もでやってくる。

「なにはなしてんの？ここにちは。格流人だ」

「私も自己紹介しなきゃね。日ノ坂沙羅よ」

学校のことや最近の出来事、最近出来た友達のことを話しているとお昼時になり始めたので、別れた。1-1-Aのカフェは人気で初春達と話してた時以外は休む暇もなく、忙しく働いた。

それでも一つのイベント、そつ、テレビが取材に来る出し物だ。常盤台は午前にやり、長点上機は午後にやることになっていたのだ。やるのは・・・演劇。

いつも見ているものがけれども超能力で凄くさせられるものならこのへんが妥当だらうとの意見で決まった。いつも見ている物にしたのは凄さを分かりやすくするためだ。やるのは『シンデレラ』。

配役は

シンデレラ・・・御坂美琴

王子様・・・格流人

継母・・・日ノ坂沙羅

意地悪なお姉さん・・・祭花未玖、神裂桃歌（インデックスの偽名）

神裂、当麻の名前から）

魔法使い・・・絹旗最愛

となつた。もちろん指導は玲。

さてどうなる・・・?

「シンデレラ、お皿を洗いなさい」

「シンデレラ、洗濯をするんだよ」

シンデレラは継母とお姉さんについつもいじめられていきました。かわいそうなシンデレラは舞踏会にも連れていってもらえませんでした。

しかし魔法使いが魔法をかけてくれました。

シンデレラの衣装が一瞬で変わる。これは座標移動だ（結標協力）。そして馬車は空を飛ぶ。これはオリジナルアレンジで念動能力を使っている。

パーティも空間移動で一気に飾り上げ、シャンデリアは念動能力で宙に浮かせる。歌姫と呼ばれる未玖はピアノも上手く、ワルツを弾く。

王子がシンデレラの手を取る。一人は踊り、楽しい時を過ごしたが十一時の鐘がなる。シンデレラはガラスの靴を残して帰ってしまう。そして王子様がガラスの靴を持つてやつてくる。シンデレラが履くとあらびつたり！

座標移動でドレス姿に変わり、王子様の告白を受け終わる筈だったのだが告白を受けてすぐに美琴がつまづいてしまう。とつさに流人が美琴の手を掴み、引き寄せキスする。

ちゅっ

小さく音を立ててキスする。一人はその後何も無かったかのようこ振る舞つた。

打ち上げ

カンカンッ！

グラスとグラスがぶつかる音があちこちで鳴る。
沙羅、未玖、玲も乾杯する。

「みこちゃんと流つかどに行つたのかな？」

「さあ？」

沙羅も玲も妙にぎくしゃくしていた美琴と流入を思いだし目を瞑つた。

”大丈夫だといいんだけど・・・”

打ち上げ会場の隅

からん 美琴がグラスを傾ける。先ほどのキスを思いだし、顔が火照る。ヒヤツ 急に頬に冷たい物を感じる。

「ひやあつ」

「よつーこんな隅つこにいないであつち行つたら？沙羅達もいるぞ」

美琴はあ、うんと曖昧に頷くだけで一向に動こうとしない。しばらく沈黙が続く。

「悪かつたな。さつきは」

流人が謝つても美琴はずつと黙つてている。だが掠れ掠れに言葉を紡

いでゆく。

「流人は・・私を助けてくれたのに・・自分のことしか・・考えてない・・そんな自分が・・すごく嫌」

思わず流人は抱きしめる。ひくつと小さな嗚咽が聞こえる。美琴は思い切り泣いた。

「美琴、沙羅にも俺にも甘えていいんだよ。誰も迷惑なんて思わないから」

流人が悲しそうに笑った。

「ありがと。さ、沙羅のとこ行こうー。」

すつきりした顔で戻ってきた美琴を見て沙羅は安心した。

打ち上げ（後書き）

ついに一端覽祭編完結しました。

最後がめちゃめちゃかなー？

次は魔術が出ます！

神話を猛勉強中でござります！

a happy new year!

今年もよろしくお願ひします！

感想お待ちしています！

むー神話どうしょー？

レムスライン以外の神話でこれいよいよーと書つのがあつたら教えて下さい。

レムス

美琴は沙羅、未玖、流人と久しぶりにファミレスに来ていた。しかし、一方通行から連絡が来る。魔術師が侵入した、と。すぐに統括理事会全員で向かう。

そこには美琴と年があまり変わらない少女が待ち構えていた。

「あなたが神ね？」

少女は美琴を指してそう告げる。

「なんのこと？」

「とぼけても無駄よ。この壁を越えんとする全ての者に災いを！」

足元のラインがキラーンと浮かび上がる。咄嗟に当麻が右手を出す。ラインは元に戻る。一方通行が攻撃する。少女は軽々とよけるがその先には当麻が待ち構えていた。気づくのが遅れた為、少女は思い切り殴られる。このままでは分が悪いと感じたのかいちもくさんに逃げ出す。

「御坂、お前は何者なんだア？」

美琴は何も言わない。

「言え」

一方通行が強い口調で言つ。

「・・・分かつた。私の本当の名前はアルトリア。美琴は親友を庇つて死んだ。最後に上条当麻を支えてと言い残して」

皆、思いもしなかった事実に呆然とする。

「あれは只の願望だつたのかもしれないし、本当にほしかったことは分からぬ。けど親友はそれを叶えようとした。親友に偽りの人生を歩んでほしくなかつたから私が彼女に成りました」

ビリッ！化けの皮を剥がす。

するとプラチナ色の髪と金の瞳が露になる。長く伸びた髪に大きな眼。まちがいなく美人だ。アルトリアはその大きな金の瞳を閉じる。決意したかのようにまた眼を開ける。

「私は神。天使を簡単に倒せるような化け物よ」

レムス（後書き）

戦闘シーンは苦手だ・・・。

最後まで残念クオリティですみません・・・。

箱庭の少女

私の力は恐れられていた。だから私は楽園といつ名の地獄に閉じこめられていた。

誰も目を合わせてくれない。むしろ背けているように感じる。

足枷に手枷を着けられ、生きることにすら絶望していた。

でもそんな私をローズが救つてくれた。対等に扱つてくれていつもニコニコ笑つてくれていて。

けれど外出許可がでた日にローズは殺されかけ、私は御坂美琴として生きはじめた。

記憶喪失と偽り、美琴のことを聞いて必死に演じていた。
壊すことしか出来ない破壊神の私は守る強さとか優しさとか愛情とかなんて分からぬ。

でもローズとの約束と私に出来る唯一のことだから。
止める訳にはいかなかつた・・・！

そんなのは偽善で罪滅ぼししたいだけなのだと分かつてゐる。
いや、分かつてないのかもしれない。だからこんな無意味なことを
続けているのだろう。

けれど美琴の大切な人を壊したくなかったんだ――

きっと明日には楽園に連れていかれるだろう。

箱庭から出られない、生きることに絶望している少女に戻るだろう。

ローズは今、学校の先生だ。きっと関わることすら無い。

それでいいんだ。ごめん、美琴、ローズ。約束守れなくて。

さよなら、皆。

箱庭の少女（後書き）

意味分かんないですよねー。

とりあえず、最後の方だけ覚えておいてください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7029z/>

angelprincess

2012年1月5日22時46分発行